



# 但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2012. 5 第29号

但馬国府国分寺館  
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808  
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112  
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjiken/



今も守り続けられている漆掻き作業（京都府福知山市夜久野町）  
photo: 四方一雄/やくの木と漆の館 写真提供

## 第26回企画展 漆の文化史

漆は、古くから食器だけでなく、調度品や装飾品、建築などさまざまなものに用いられて、日本の文化に深く根付いてきました。また、漆器のことを「japan」とよぶように、日本の漆器は西欧諸国の文化にも多くの影響を及ぼしていたのです。しかし、近年の生活様式の変化は、漆器を高価で扱いにくいものとして遠ざけ、特別な場でしか本物の漆器を見なくなってきました。漆器の需要の減少は、漆の植栽地を奪い、後継者を減らしています。その結果、日本美の粋を集めた優れた装飾技術だけでなく、日常的な漆製品さえも失われつつあるのです。

今回の展覧会では、主に奈良・平安時代の遺跡から出土

した漆製品などをもとに、漆が日本の文化に与えた影響について考えます。この機会に、漆の特長やその魅力を見直していただければ幸いです。

■会期 平成24年5月10日（木）～8月28日（火）

■展示協力機関・個人（50音順・敬称略）

朝来市教育委員会 朝来市埋蔵文化財センター  
いずし古代学習館 東京国立博物館  
豊岡市立出土文化財管理センター  
やくの木と漆の館  
高橋治子 田畑基 中島雄二 藤井麻

## Topics 漆文化の今

近年、プラスチック容器などが普及したため、木を使った漆器の需要は激減しています。また、安価な中国産漆の輸入増加、さらには職人の高齢化や後継者不足などさまざまな問題も抱えています。このように、漆を取りまく現状は危機的ですが、京都府福知山市夜久野町では、ウルシの木の栽培から漆塗りや加飾まで、一貫した漆製品の製作工程を守り、漆文化の継承が図られています。



ウルシの木を育てる  
やくの木と漆の館 写真提供



漆掻きの様子  
やくの木と漆の館 写真提供



漆掻きの道具  
やくの木と漆の館 写真提供

## 漆使用の起源は日本？

漆は、はるか縄文時代より用いられてきました。現在のところ、日本で最も古い漆は、北海道にある垣ノ島B遺跡から出土した繊維製品。縄文時代早期（約9000年前）のもので、世界最古と言われています。また、縄文時代のウルシの木のDNA分析の結果、日本のウルシの木は日本固有種であることも確認されています。



漆を塗った盾  
(南八代田遺跡)  
但馬国府・国分寺館 蔵

初期の漆製品は、日本海沿いに多く分布していることから、日本海、特に対馬海流を介した交流が盛んだったことが分かります。



漆で接合した須恵器(港東小学校跡地遺跡)  
豊岡市立出土文化財管理センター 蔵

## 奈良・平安時代の漆

奈良時代や平安時代になると、宮殿や寺院の建立にともなって漆の需要が増大しました。その原料となる漆液は、税として日本各地で徴収され、都へと運ばれていたのです。

漆製品の製作技法も進化し、蒔絵（漆で文様を描き、そこに金銀の粉を蒔いて加飾する技法）や螺鈿（夜光貝やアワビの貝殻をはめ込む加飾法）などを施したきらびやかな製品も作られるようになりました。ただし、これらの優美な漆製品を使えたのは、天皇や高級貴族などごく一部の人だけ。庶民は漆器さえ手に入れることはできなかったのです。



漆器蓋・箱  
(平安京)  
京都市 蔵

## 古代の漆器製作

平安時代（10世紀）の法律書である『延喜式』には、漆器製作のための材料や労働力などが明記されています。それによると、口径24cmの飯椀の製作に、約50ccの漆液を必要としています。これは、当時のウルシの木1本の年間採取量にあたり、その価格は労働者の1日あたりの賃金に匹敵します。古代の漆器は、庶民には手の届かない高級品だったのです。

その原料となる漆は、但馬を含め15ヶ国から税（17～20歳の男子に地方の特産物を都に貢進させる「中男作物」）として都へ貢進されていました。

### Topics

### うるしがみもんじょ 漆紙文書

紙は腐りやすいため、古代の紙が土の中から見つかることはまずありません。しかし、漆の保護作用によって残ることがあるのです。これは、不要になった紙を漆を入れた器の蓋として使用し、それが漆とともに固まったもので、漆紙文書とよばれます。祢布ヶ森遺跡で出土した漆紙文書には、人名・年齢と思われる数字や「給」などの文字が書かれているため、貧しい人たちに食糧などを支給した時の文書と考えられます。



漆紙文書（祢布ヶ森遺跡）



漆紙文書の赤外線写真(裏焼き)



漆器壺（祢布ヶ森遺跡）  
但馬国府・国分寺館蔵



漆を運んだ壺（福成寺遺跡）  
豊岡市立出土文化財管理センター蔵



平安時代の漆器製作道具（祢布ヶ森遺跡）  
但馬国府・国分寺館蔵



漆のパレット（但馬国分寺跡）  
但馬国府・国分寺館蔵



漆で記号を描いた須恵器（高田遺跡）  
朝来市埋蔵文化財センター蔵



現代の漆器製作道具  
やくの木と漆の館蔵

## 中世の漆

平安時代後期になると、中央集権的な国家権力が衰え、在地領主の存在が大きくなりました。それとともに、国衙や郡衙の工房にまとめられていた漆工人や木地師たちは、自立の道を求めるようになったのです。彼らは各地の富豪たちの求めに応じて出向き、新たな漆器生産を始めました。同じ頃、漆の代用として柿渋を使って下地としたり、漆の重ね塗りの回数を減らしたりした安価な漆器が登場しました。そのため、漆器は上流階級のみのものでなくなっていきました。



漆を塗った丹波焼の壺  
豊岡市立出土文化財管理センター蔵



漆器椀（袴狭遺跡）  
いずし古代学習館蔵

## 近世の漆

江戸時代になると、社会が安定し、各藩が産業の奨励と保護を行なったことで各地に漆器生産地が増えました。また、北前船などの海上航路の定着によって、地場産業にとどまらず、広域的に製品を流通させる漆器生産地も現れたのです。それらの生産地の多くは、今日の産地につながっています。また、江戸時代には会席料理が成立し、さまざまな料理を盛り付ける漆器や膳が使われるようになりました。

江戸時代の漆器は、大名など目の肥えた人々のために、高度な製作技法が必要とされる金銀で加飾した華やかなものが増える一方、安価な漆器も量産され、漆器は庶民にまで広く普及していきました。

## Topics 旧中和家所蔵資料

中和家は、豊岡市出石町にあった旧家で、古くから大庄屋を務めてきました。ここでは、漆器や書画などの収蔵品が多数伝わっています。それらの一部には出石藩主仙石家の家紋が入っていることから、仙石家からの拝領品も含まれていると考えられます。



中和家庭園  
(豊岡市指定文化財)



螺鈿時絵遊山箱 (旧中和家所蔵品)



螺鈿時絵遊山箱の螺鈿装飾



漆朱卓 (旧中和家所蔵品)



時絵花鳥紋大平 (旧中和家所蔵品)



仙石家家紋入食籠 (旧中和家所蔵品)

## お知らせ

### ■ 学芸員講座「古代の漆とその生産」

日 時：平成 24 年 6 月 23 日 (土) 午後 1 時 30 分～  
会 場：但馬国府・国分寺館 映像ホール  
講 師：前岡 孝彰 (当館学芸員)  
\*入館料が必要です。講座の後に展示解説を行ないます。

### ■ 体験イベント「漆のお皿に絵付けをしよう！」

日 時：平成 24 年 8 月 5 日 (日) 午前 10 時～  
会 場：但馬国府・国分寺館 総合学習室  
講 師：やくの木と漆の館スタッフ  
材料費：1050 円  
定 員：10 名 (要予約)

## 但馬国府・国分寺館 ご利用案内

- 開館時間 午前 9 時～午後 5 時  
(入館は午後 4 時 30 分まで)
- 休 館 日 毎週水曜日  
(祝日は開館し、翌日休館)  
12 月 28 日～1 月 4 日
- 入 館 料 大 人 500 (400) 円  
高 校 生 200 (150) 円  
小中学生 150 (100) 円  
\* ( ) は 20 名様以上  
\* 県内小中学生は無料  
\* 65 歳以上の方は半額

■最新情報はホームページもご覧下さい。  
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>



国分寺館キャラクター  
たじまる・くにひめ



ホームページ QR コード